

質問に対する回答について
工事名) 磐越自動車道 束松トンネル工事

質問事項と回答

番号	質問事項	回 答
1	設計関係図書 設計図 附帯工 12/29 ブロック積工天端部及びシールコンクリート部の接着幅、それぞれの施工延長と接着材仕様についてご教示願います。	防草シート工について、ブロック積工天端部及びシールコンクリート部の接着幅は100mmとなります。各箇所の施工延長は設計図書より貴社にてお考えください。なお、接着剤はシリコン系接着剤となります。 交付図書の一部に誤りがありましたので後日訂正いたします。

2	<p>設計関係図書 設計図 トンネル 134～136/141 コンクリート基礎工 A, B, C について、展開図や断面図等を基に算出したものと材料表に記載されている単位数量が一致しません。ご教示願います。</p>	<p>コンクリート基礎工の材料表について、正しくは以下の通りとなります。</p> <p>設計図 トンネル 134/141 頁 コンクリート基礎工 A 構造物掘削 20.85m³ 埋戻し 10.84m³ コンクリート 2.08m³ 型わく 3.35m²</p> <p>設計図 トンネル 135/141 頁 コンクリート基礎工 B 構造物掘削 11.90m³ 埋戻し 7.33m³ コンクリート 1.36m³ 型わく 4.50m²</p> <p>設計図 トンネル 136/141 頁 コンクリート基礎工 C 構造物掘削 13.15m³ 埋戻し 7.98m³ コンクリート 1.65m³ 型わく 5.00m²</p> <p>交付図書の一部に誤りがありましたので後日訂正いたします。</p>
3	<p>設計関係図書 特記仕様書 30 頁 トンネル掘削「DⅡ-a (H) -AFS-K」において、早期閉合を施工と記載があります。早期閉合の施工に伴う一次、二次インバート掘削やインバート埋戻し、ずり運搬に関する内容について記載がございませんが、トンネル掘削単価に含まれる認識でよろしいでしょうか。</p>	<p>トンネル掘削「DⅡ-a (H) -AFS-K」には、上半部掘削、下半部掘削、盤下げ部掘削（インバート部一次掘削）、盤下げ部ずり積込・運搬、鏡吹付コンクリート施工（t=50mm）、インバート部一次埋戻し、インバート部一次埋戻し箇所の掘削が含まれます。</p>

<p>4</p>	<p>設計関係図書 数量明細表 9 頁 設計図 参考図 2/45 吹付コンクリート A (t=15cm) K の数量が「8354. 3m2」となっておりますが、設計図を元に数量を確認した結果、「8307. 4m2」となります。閲覧資料を確認したところ、参考図の加背割図に記載の 1 断面当りの吹付数量と閲覧資料の吹付数量が異なっているため、差が出ております。現在の数量は閲覧資料の数量となっており、設計図数量と単価数量が一致しておりませんが、設計図・数量明細表のどちらが正しいかご教示願います。</p> <p>○設計図_参考図：全断面吹付コンクリート 23. 776m2/m インバート吹付コンクリート 12. 106m2/m</p> <p>○閲覧資料：全断面吹付コンクリート 23. 914m2/m インバート吹付コンクリート 12. 229m2/m</p>	<p>DⅡa (H) -AFS-K の吹付コンクリート A (t=15cm) K の数量は、数量明細表に記載の通り、8354. 3m2 となります。なお、吹付コンクリート A (t=15cm) K における DⅡa (H) -AFS-K の数量について、正しくは以下の通りとなります。</p> <p>全断面吹付コンクリート 23. 914m2/m インバート吹付コンクリート 12. 229m2/m</p> <p>交付図書の一部に誤りがありましたので後日訂正いたします。</p>
----------	--	---

5	<p>設計関係図書 数量明細表 11 頁 設計図 トンネル 61/141 インバート埋戻し工の数量が「7765.1m³」となっておりますが、設計図を元に確認したところ、数量は「7732.8m³」となります。閲覧資料を確認したところ、中央排水管の控除数量が設計図と閲覧資料で異なっており、その差が出ているものと思われます。設計図数量と単価数量が一致しておりませんが、設計図・数量明細表のどちらが正しいかご教示願います。</p> <p><例：CⅡ-a (H) -B> ○設計図：4.800m³ (10m 当り) ○閲覧資料：4.560m³ (10m 当り)</p>	<p>インバート埋戻し工の数量は、数量明細表に記載の通り、7765.1m³となります。なお、設計図 トンネル 61/141 排水工詳細図(3) 中央排水工B材料表の数量について、正しくは以下の通りとなります。</p> <p>中央排水工B材料表 掘削 4.560m³ フィルター材 3.631m³</p> <p>交付図書の一部に誤りがございましたので後日訂正いたします。</p>
6	<p>設計関係図書 特記仕様書 41、42 頁 数量明細表 14 頁 Dv-Pu・0.30・0.30(S)は張コンクリートの施工を行わないとの解釈でよろしいでしょうか。その場合、設計図及び用排水構造物標準設計図集に記載がないため図面及び数量表の提示をお願いいたします。</p>	<p>Dv-Pu・0.30・0.30(S)は張コンクリートの施工を行います。</p> <p>交付図書の一部に誤りがございましたので後日訂正いたします。</p>

7	<p>設計関係図書 設計図 工事用道路 3、8 頁</p> <p>工事用道路工 B の盛土について、工事用道路工 C の盛土は数量内訳表にて「切土土砂 B を使用」と記載がありますが、工事用道路 B の数量内訳表には同様の記載がありません。数量内訳表の欄外の文章からは切土土砂は盛土に使用しないと読み取れます。工事用道路工 B の盛土は購入材か切土土砂のどちらを使用するかご教示願います。購入材を使用する場合は使用材料の規格について併せてご教示願います。</p>	<p>工事用道路Bにおける盛土は「切土土砂Bを使用」となります。</p> <p>交付図書の一部に誤りがありましたので後日訂正いたします。</p>
8	<p>設計関係図書 金抜設計書 番号 136、137、144</p> <p>汚濁水処理工（運転）A 662 日→853 日</p> <p>汚濁水処理工（供用）A 945 日→1218 日</p> <p>フリッカ設備工（供用） 945 日→1218 日</p> <p>以上、赤字の数量が正ではないでしょうか。</p>	<p>汚濁水処理工、フリッカ設備工の数量について、正しくは以下の通りとなります。</p> <p>汚濁水処理工（運転）A 853 日 汚濁水処理工（供用）A 1218 日 フリッカ設備工（供用） 1218 日</p> <p>交付図書の一部に誤りがありましたので後日訂正いたします。</p>
9	<p>設計関係図書 特記仕様書 25 頁</p> <p>盛土工 A1 に関して購入材ですが土砂 F 相当として代価計上されているという理解でよろしいでしょうか？</p> <p>た、購入材に関してロス率は計上されてますでしょうか？計上されてましたらロス率についてご教示ください。</p>	<p>積算に関する質問にはお答えできません。</p>

1 0	<p>設計関係図書 特記仕様書 25 頁 特記仕様書 2 9－5 盛土工 A1 に使用する購入材について、当初設計では市販の砕石 (C-40) で計上されているという理解でよろしいでしょうか？ そうでなければ単価は事前公表されるのでしょうか？ ご教示ください。</p>	<p>積算に関する質問にはお答えできません。</p>
1 1	<p>設計関係図書 特記仕様書 56 頁 特記仕様書 29－45 除雪工に記載されている・ホイール型トラクションベル (バケット 1.0m³ 型マルチプラウ) の損料単価については、機械器具損料表に記載がないと理解しておりますが、その理解でよろしいでしょうか？ また、その場合事前に公表されるのでしょうか？ ご教示ください。</p>	<p>積算に関する質問にはお答えできません。</p>
1 2	<p>設計関係図書 特記仕様書 45 頁 設計図 トンネル 23/141 支保パターン図 (3) の吹付け・ロックボルト材料表に、鏡吹付コンクリート t=100 (上半 9m 当り 59.411m²) と t=50 (全断面 81.388m²) が並記されており、特記仕様書では長尺鋼管鏡補強工に含まれる鏡吹付けの費用として「設計厚 t=100mm のうち肌落ち防止の t=50mm を除いた施工」とあります。 トンネル掘削 DⅡ-a(H)-AFS-K に費用を計上する鏡吹付けは全断面の 81.388m² で t=50mm と考えてよろしいでしょうか。</p>	<p>DⅡ-a(H)-AFS-K に含む鏡吹付コンクリートについて、正しくは上半の 59.487m² t=50mm となります。交付図書の一部に誤りがありましたので後日訂正いたします。</p>

1 3	<p>設計関係図書 特記仕様書 45 頁 設計図 トンネル 23/141</p> <p>同様に、長尺鋼管鏡補強工で計上する鏡吹付けは、トンネル掘削で計上される全断面 81.388m² の上半部分 59.411m² に t=50mm の増し吹きを行う分だけと考えてよろしいでしょうか。</p>	<p>長尺鋼管鏡補強工に含む鏡吹付コンクリートについて、正しくは上半の 59.487m² t=50mm となります。</p> <p>交付図書の一部に誤りがありましたので後日訂正いたします。</p>
1 4	<p>設計関係図書 特記仕様書 45 頁 設計図 トンネル 23/141</p> <p>上記の場合、長尺鋼管鏡補強工のサイクルタイムは、鏡吹付けの数量を、59.411m²、t=50mm として算定されているものと考えてよろしいでしょうか。</p>	<p>サイクルタイムについてはお答えできませんので、貴社の施工計画に基づきお考えください。</p>
1 5	<p>設計関係図書 設計図 トンネル 7/141 第 3 編_設計報告書（2 工区トンネル編） 第 15 章 1-22</p> <p>地質平面縦断面図の地質凡例では当トンネルの地質が新第三紀層になっていますが、施工計画書では支保パターン D II-a(H)-AFS-K のインバート削岩能力と仮締固め能力の値が通常の D 地質のものになっています。東松トンネルの地質は第三紀層と通常の C 地質、D 地質のどちらを想定されているのでしょうか。</p>	<p>設計図 トンネル 7/141 地質平面縦断面図に記載の通りとなります。</p>
1 6	<p>設計関係図書 設計図 トンネル 21、22、25～33/141</p> <p>各支保パターンの鏡吹付けの面積と厚さをご教示願います。</p>	<p>共通仕様書、設計図書、質問書に対する回答に記載の通りとなります。</p>

17	<p>設計関係図書 設計図 トンネル 23/141</p> <p>吹付け・ロックボルト材料表の4行目に「鏡吹付コンクリート t=100 上半(9m 当り)」とありますが、一掘進長毎に9行目の「鏡吹付コンクリート t=50 全断面」を施工するので、総厚で t=150 になると考えます。長尺鋼管先受工及び長尺鋼管鏡補強工に伴い、上半に対して t=50 の鏡吹付を施し、総厚で t=100 を確保するとも読み取れます。どちらの考えで御見積すればよろしいでしょうか。</p>	<p>設計図 トンネル 23/141における鏡吹付コンクリートについて、正しくは</p> <p>トンネル掘削 1.0m当り 上半：59.487m² t=50mm 長尺鋼管鏡補強工 9.0m当り 上半：59.487m² t=50mm 総厚 t=100mmとなります。</p> <p>交付図書の一部に誤りがございましたので後日訂正いたします。</p>
18	<p>設計関係図書 設計図 参考図 13/45</p> <p>DⅢa(H)-B-Wにおける覆工コンクリートの月進が、95m/月で考えています。非常駐車帯と拡幅断面であるため、覆工コンクリートの月進は55m/月となります。これにより、覆工コンクリート施工期間を想定し、御見積してよろしいでしょうか。</p>	<p>DⅢa(H)-B-W部の覆工コンクリートの月進は55m/月となります。</p> <p>交付図書の一部に誤りがございましたので後日訂正いたします。</p>
19	<p>設計関係図書 設計図 参考図 17/45</p> <p>L=8.9m 区間は制御爆破工法区間(EDD 雷管)と記載がございます。特記仕様書に記述がありませんが、参考図を基に制御爆破工法にて施工すると考えてよろしいでしょうか。</p> <p>上記の制御爆破工法の場合、標準の爆破工法と装薬量や削孔数が異なると思われます。制御爆破の計画図をご開示願います。</p>	<p>設計図 参考図 17/45 避難連絡坑施工次第図(1)に示す制御爆破工法区間(EDD雷管)について、正しくは通常爆破工法区間となります。</p> <p>交付図書の一部に誤りがございましたので後日訂正いたします。</p>

20	<p>設計関係図書 設計図 トンネル 36/141 アーチ部鉄筋質量表(6.0m 当り)及びインバート部鉄筋質量表(6.0m 当り)の当該部位は DⅢa-B-W L=18m であり、坑門工 L=0.9m は含まれていないと考えてよろしいでしょうか。</p>	<p>設計図 トンネル 36/141 における鉄筋質量表に、坑門工の数量は含まれません。なお、設計図 トンネル 36/141 の位置図における区間延長について、正しくは以下の通りとなります。</p> <p>DⅢa(H)-B-W : L=17.1m 坑門工 : L=0.9m</p> <p>交付図書の一部に誤りがありましたので後日訂正いたします。</p>
21	<p>設計関係図書 設計図 トンネル 38/141 アーチ部鉄筋表及びインバート部鉄筋表の当該部位は 1 スパン当り(9.5m 当り)であると考えてよろしいでしょうか。</p>	<p>アーチ部及びインバート部鉄筋表の単位は、DⅢa(H)-C-RC1-Kの1 スパン当り(9.5m 当り)となります。交付図書の一部に誤りがありましたので後日訂正いたします。</p>
22	<p>設計関係図書 設計図 トンネル 40/141 アーチ部鉄筋表及びインバート部鉄筋表の当該部位は 1 スパン当り(9.0m 当り)であると考えてよろしいでしょうか。</p>	<p>アーチ部及びインバート部鉄筋表の単位は、DⅢa(H)-C-RC2-Kの1 スパン当り(9.0m 当り)となります。交付図書の一部に誤りがありましたので後日訂正いたします。</p>
23	<p>設計関係図書 設計図 トンネル 134/141 大型コンクリートブロック積み 材料表に裏込コンクリート (51.77m³)の記載がありますが、コンクリート D1-1ではなく、本項目で計上すると考えてよろしいでしょうか。</p>	<p>令和7年6月16日掲載の「質問に対する回答について⑩」質問番号 12に対する回答の通りとなります。</p>
24	<p>設計関係図書 設計図 本線 2/35 P (P o-B)・φ0.40 (S d-B)は標準図集とありますが、掘削深さをご提示願います。</p>	<p>掘削深さは、設計図 本線の排水系統図および用排水構造物標準設計図集により算出してください。</p>

25	<p>設計関係図書 金抜設計書 9～11 頁 調査ボーリング施工中のトンネル掘削で使用する機械の損料（供用日）は各支保パターンのトンネル掘削、吹付コンクリート工の単価項目で計上するのでしょうか。</p>	<p>積算に関する質問にはお答えできません。</p>
26	<p>設計関係図書 設計図 参考図 13/45 支保パターン毎の月当り進行長（調査ボーリング期間を含む）をご提示願います。</p>	<p>支保パターン毎の月当り進行長（調査ボーリング期間を含む）は、貴社の施工計画に基づきお考えください。</p>
27	<p>設計関係図書 金抜設計書 20 頁 特記仕様書 57 頁 金抜設計書では 1664m となっておりますが、特記仕様書にはオールコア：1344m、ノンコア 300m と記載がございます。オールコア 1344m＋ノンコア 300m＝1644m となりますが、どちらの延長で御見積すればよろしいでしょうか。</p>	<p>先進ボーリングの数量について、正しくは オールコア：1344m ノンコア：300m 合計：1644m となります。 交付図書の一部に誤りがありましたので後日訂正いたします。</p>
28	<p>設計関係図書 割掛対象参考内訳書 3 頁 散水車は損料の他、運転手人件費、燃料費も見積対象でしょうか？また、散水車の 1 日の稼働時間は何時間でお考えでしょうか。</p>	<p>割掛対象表参考内訳書に関する質問にはお答えできません。</p>
29	<p>設計関係図書 割掛対象参考内訳書 5 頁 換気設備の仕様をご提示願います。</p>	<p>割掛対象表参考内訳書に関する質問にはお答えできません。</p>

30	<p>設計関係図書 設計図 軽沢橋 83/124</p> <p>ブロック積みの裏面に施工する盛土工 406.9m³ は、下部路体管理と考えてよろしいか、ご教示ください。</p>	その通りとなります。
31	<p>設計関係図書 設計図 本線 34、35/35</p> <p>排水系統図に記載されている水路が、契約単価項目に無い物があります。特記仕様書の補足事項にも追加等の記載がありません。この取り扱いは、どのように考えればよいのか、ご教示ください。例：排水系統図記載 $D_v \cdot B_f \cdot 0.3 \cdot 0.2 (10)$ は、今後追加対象でしょうか。</p>	<p>$D_v \cdot B_f \cdot 0.3 \cdot 0.2 (10)$ は契約単価項目にて計上、数量は78.8mとなります。</p> <p>交付図書の一部に誤りがありましたので後日訂正いたします。</p>